

1 研究の概要

(1) 研究主題

特別活動と道徳科の効果的な連携を図るカリキュラム・マネジメント ー学校行事前後の学習過程の工夫を通してー

(2) 研究主題設定の趣旨

小学校学習指導要領解説特別活動編には、目標の改善について、道徳教育の視点が挙げられ、「とりわけ、特別活動における学級や学校生活における望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的実践の指導をする重要な機会と場であり、道徳教育に果たす役割は大きい」⁽¹⁾と示されています。これは、豊かな心の育成を担う道徳教育の充実をねらうものでしたが、いじめにつながる人間関係の問題、不登校児童生徒の増加、公共心や規範意識の低下など、子どもの心の問題から派生する様々な教育課題は解決に向かうどころか、よりその問題の深刻さを表す事件・事故が発生しました。

そうした中、平成24年から道徳の教科化の議論が始まり、平成26年10月21日に「道徳に係る教育課程の改善等について」と題された中央教育審議会答申が出されました。それには、「道徳的実践の指導の充実を図る観点から目標や内容を見直した現行の学習指導要領における特別活動が道徳教育において特に重要な役割が期待される」⁽²⁾と述べられています。杉田は、このことについて「(道徳の教科化に伴う)学習指導要領の改訂は、『道徳の授業改善』と、『特別活動など全般教育活動における道徳教育の充実並びに道徳授業との関連的な指導の工夫』の大きく二つのことを求めている。」⁽³⁾と述べています。つまり、今回の道徳の教科化は、これまで以上に道徳と特別活動の関連付けを求めているのです。

そこで、本研究では、特別活動と道徳科との関連を図るカリキュラム・マネジメントを行い、学校行事前後の学習過程を工夫することを通して、よりよい仲間との関係や日常の学校生活を築こうとする児童の育成を試みます。学校行事に関わる役割や目標を重視し、活動の振り返りを計画的に取り入れることで、自他の言動に含まれる道徳的価値の自覚を促していきます。そうすることで、児童が自らの実践を道徳的実践と捉え直し、今後の様々な生活場面において道徳的実践を行おうとするようになり、それが自らよりよい仲間との関係や日常の学校生活を築くことになると考えます。

以上のような理由から、本研究主題を設定しました。

(3) 研究のねらい

よりよい仲間との関係や日常の学校生活を築こうとする児童の育成を目指して、学校行事前後の学習過程を工夫し、特別活動と道徳科の効果的な関連を探る。

(4) 研究の方法

ア 特別活動と道徳科についての理論研究

- イ 学校行事の学習過程に関する文献調査及び題材・教材開発
- ウ 学級活動、道徳科を見据えた道徳における小学6年生、小学4年生での検証授業及び考察

(5) 研究の内容

- ア 特別活動と道徳科の学習指導要領や様々な文献を基に、学校行事と学級活動、道徳科の関連を図る研究を行います。
- イ 児童がよりよい仲間との関係や日常の学校生活を築くことにつながる学校行事と学級活動、道徳科を関連させた学習過程の研究を行います。
- ウ 学級活動と道徳科の検証授業を行い、児童のワークシートの記述等を基に考察し、研究の妥当性を検証します。

引用文献

- (1) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説特別活動編』 平成20年8月 p.25
- (2) 中央教育審議会 『道徳に係る教育課程の改善等について(答申)』 平成26年10月 p.5
- (3) 杉田 洋 『道徳と特別活動』 2015年6月号 p.35 文溪堂